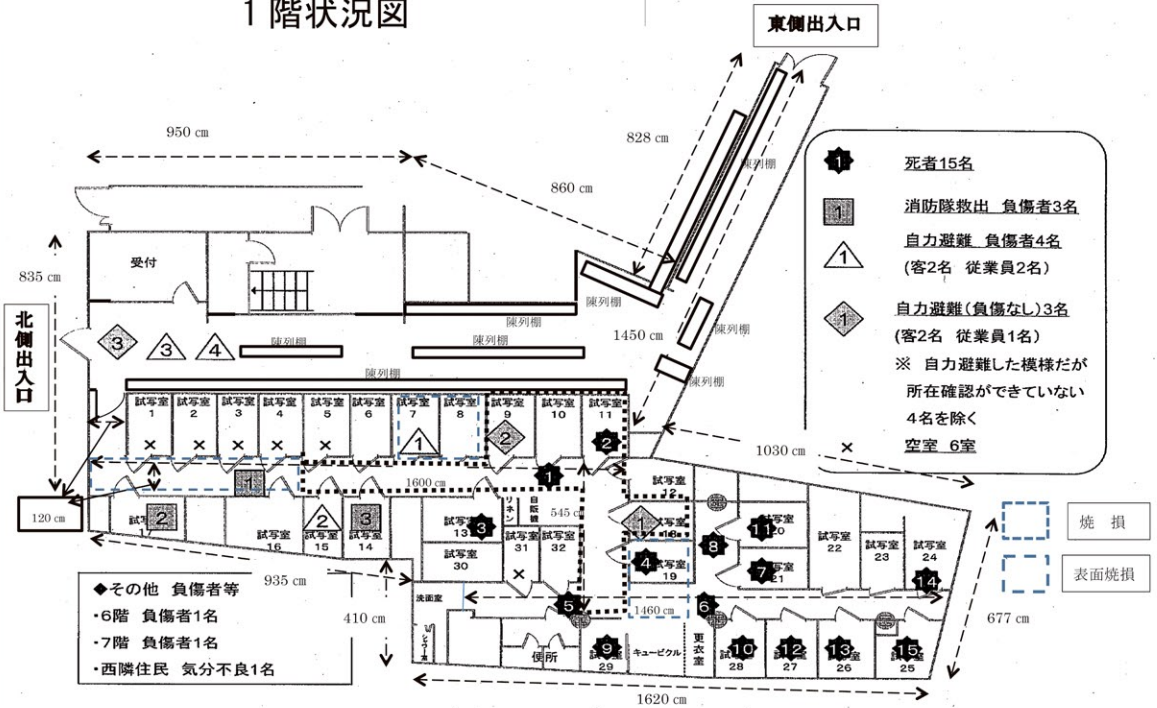


1階状況図



みである。試写室コーナーで室内の焼きが確認されたのは9, 10, 11, 18号室で各室前の通路も焼きが強い。4室以外の室内はほぼ煤けのみである。

燃焼経過について

出火室と推測される18号室では、出火から3〜4分という短時間でフラッシュオーバーが発生したと思われる。火災は開放されていたドアから前面通路や隣室へと拡大し北側入口付近まで達したが酸素供給不足から燃焼が衰退したものと考えられる。

死傷者の状況

15名の死者及び負傷者10名が発生した。死者15名と負傷者7名は店舗滞在者である。店内には客25名と従業員3名の28名が滞在中であり、店長1名と5名の客は負傷がない。

焼きが強い18号室より手前の入口側では死者3名と負傷者7名、奥で12名の死者が発生している。死因は全員「急性一酸化炭素中毒」であった。
本火災が契機となり消防戦術の研究や各種資器材が次のように充実化されてきた。

戦術及び資器材の整備

○直近中継隊による即消体制の充実

- 40mmホース、ガンタイプノズル
- 現場外套の改良
- ライトロープ、熱画像カメラ

以上が火災概要と戦術資器材の変遷であるが、当時の検討課題について再度振り返り、このような状況下の火災が発生した場合どのように対応・活動すべきであるか、今一度考えておく必要がある。

来月号では本火災における各種課題について考えていきたい。

以下翌1月号掲載(内容精査)

本火災の敵は濃煙熱気・狭隘廊下・多数要救助などが多々挙げられるが我々が考えるべき課題とは「共有と連携」ではないのか。当時の各種課題に対し、どのような「共有と連携」が必要であり、事前対策や訓練を積み重ねていかなければならないのか。

課題

- 現場環境とリスク
- 狭隘廊下や小区画多区画検索要領
- 濃煙熱気内検索要領
- 多数救助要領
- 援護注水及び消火隊連携要領
- 排煙排熱要領
- 救出と現場保存

(文責 松前)